

## 第 39 回 亀嵩城、決死の調査隊

映画「砂の器」の舞台となった奥出雲町亀嵩は、かつて仁多郡と広瀬(富田)、そして松江を結ぶ街道の要地であった。今でも人通りの少ない静かな町並みが残り、国道 432 号沿いに掲げられた「ここはかめだけ ウサギはいない ゆっくり走ってみませんか」という交通標語が微笑ましい。



雪の亀嵩城

平成 26 年 12 月 3～4 日、町並みの南にそびえる亀嵩城と、堀尾氏の仁多郡支配について調査するため、中井均先生、西尾克己部会長、高尾昭浩氏(奥出雲町教育委員会)、福井専門調査員とともに、かの地に赴いた。3 日午後、前日から断続的に降る雪の中、亀嵩城調査は「八甲田山」を皆が口にするほど、山頂までの道なき陰しい坂道と雪との戦いだっただ。下山後、全国津々浦々幾多の山城調査を重ねてこられた中井先生が、「これまでの中で十指に入る厳しい調査でした。一生忘れられないでしょう」と述懐されたように、また西尾部会長と福井専門調査員が帰路の道に迷ってあわや遭難(?)となりかけたように〔西尾部会長の機転で無事帰着〕、松江市史編纂事業中、最も過酷な調査の一つとして語り継ぎたい。

なぜ、無謀とも思える調査を敢行したのか。ことは亀嵩城調査の約 2 年前にさかのぼる。絵図・地図部会の川村博忠先生による『江戸幕府の日本地図―国絵図・城絵図・日本図』を読んで、(1)幕府が寛永 10 年(1633)に全国を 6 区分して巡見使を派遣し、国絵図を収納した(2)巡見使の主要な任務に元和一国一城令遵守の見届け、古城の見分けがあった(3)寛永 10 年幕府収納国絵図には「古城」の表記がしてある ということに驚いた。ちょうど『松江市

史』「絵図・地図」の校正作業中だったので、寛永10年出雲国絵図として掲載予定の東京大学総合図書館蔵図、岡山大学付属図書館蔵図を確認すると、2つの国絵図とも「古城」と記された場所は、富田、三刀屋、赤穴、亀嵩の4か所のみで、これらは今日残る富田城跡、三刀屋尾崎城跡、赤穴瀬戸山城跡、亀嵩城跡にあたることが分かった。

ところで、松江城を築いた堀尾氏の「支城体制」については、全国的な研究動向をベースに、石垣など堀尾氏の築城技術という観点から中井均先生により研究が進められてきた。関ヶ原の戦(慶長5年:1600)は徳川幕府成立のきっかけとなった合戦であるが、合戦後は戦国時代最大の軍事的緊張を生み、堀尾氏は居城を築くだけでなく、新領地支配と国境警備に支城を築いたとするものである。(中井均「堀尾氏の出雲支配における支城について(1)、(2)」『松江城研究』1、2 参照)

この視点の延長で、「元和一国一城令遵守の見届け、古城の見分け」を任務にもつ幕府巡見使により収納された寛永10年の出雲国絵図を改めて見てみると、「古城」は一国一城令で廃された城を表記したものであり、堀尾氏の出雲支配における支城が置かれた場所を示していると考えられたのである。これを裏付けるように、堀尾氏の重臣である堀尾但馬が記した「堀尾古記」寛永10年の項には、巡見使入国に先立ち但馬が伯耆国米子(鳥取県米子市)へ「出雲ノ絵図」を持参し出雲国の様子(恐らく廃城の様子も)を説明したことが記されている。(西尾・稲田・福井「江戸幕府収納の出雲国絵図に記された「古城」について」『松江歴史館研究紀要』4 参照)



山頂での調査の様子

富田城跡、三刀屋尾崎城跡、赤穴瀬戸山城跡は、その築城技術から中井先生の研究によっても堀尾氏が築いた支城と評価されていたが、地元亀嵩に堀尾氏にまつわる伝承は伝わっておらず、亀嵩と亀嵩城が堀尾氏の出雲支配の拠点と考える説はこれまで無かった(むしろ三沢城を支城と考え調査が進んでいた)。しかし、亀嵩という視点で文献調査と現地調査を重ねると、仁多郡を中心とする国人領主三沢氏の最後の拠点が亀嵩であり(三沢→横田→亀嵩)、毛利氏の家臣冷泉民部の仁多郡支配の拠点も亀嵩であったことも分かってきた。そして、寺院(覚融寺、青龍寺など)や残された文書等から堀尾氏と亀嵩との深い関係もおぼろげながら分かってきた。

「亀嵩城、決死の調査隊」とは、絵図をきっかけに約2年越しに進めてきた堀尾氏の出雲支配の痕跡を亀嵩城にも見いだせるのかどうか、忙しい中井先生にご無理をお願いし実現した日程の中で、引き返せない道だったのである。(もっとも、雪の中、途中まで続いていた山道が途切れてしまい、道なき急峻な尾根筋を前に立ち止まった時、中井先生の調査敢行の決断がなければ松江市史組3人はあっさりと引き返してしまったような気もするのだが・・・)

最後に、亀嵩城調査の結論である。亀嵩城には近世城郭として堀尾氏が改修した痕跡はなさそうで、富田城、三刀屋城、赤名瀬戸山城のように「支城」とは見做せないようである。少し残念であるが、詳しくは中井先生が執筆していた次回の市史研究で執筆していただく予定の「堀尾氏の出雲支配における支城について(3)」での評価を待ちたい。ただ、これまでの亀嵩に視点を置いた調査によって、堀尾氏の出雲支配の拠点の一つ(仁多郡支配の拠点)が三沢や横田ではなく、亀嵩であったことは間違いないだろう。寛永10年出雲国絵図に記された「古城」の意味解明に併せ、更に堀尾氏の出雲支配の実像解明のために一歩でも近づいていければと願っている。

(平成27年1月20日 松江市史料編纂室長 稲田信)